



症例で考える 急性期栄養管理の工夫

日時

2014年10月29日(水)
12:20~13:20

会場

第9会場
福岡国際会議場 4F 413+414

座長

佐賀大学救急医学講座
阪本 雄一郎 先生

演者

兵庫医科大学
救急・災害医学講座/救命救急センター
小谷 穰治 先生

ランチョン整理券配布について

配布場所 福岡国際会議場 1F エントランス

配布時間 8:00~
セミナー開始時間の30分前まで

※なくなり次第終了
※整理券は、セミナー開始10分後に無効となります。



症例で考える 急性期栄養管理の工夫

兵庫医科大学 救急・災害医学講座/救命救急センター

小谷 穰治 先生

古くから大病の克服に栄養治療が不可欠であることは経験的に知られていましたが、1960年代のTPNの発明により強制的静脈栄養が可能となったことから、その有用性とともに奇しくも経口・経腸的な栄養摂取の優位性が明らかになりました。近年では、重症患者の臓器障害や感染症の発症に侵襲による免疫能の変化が深く関わっていることが明らかになるにつれ、免疫システムを増強または制御する栄養素が注目され、基礎的研究によりその機序や効果が明らかにされて来ました。言い換えれば、栄養投与は単なる不足の補充ではなく、病態を改善する治療ツールと認識すべき段階に来たと言えるでしょう。しかし、実際の臨床現場では、実施上の障害があったり、期待通りの結果とはならず、症例ごとの個別対応の戦略が必要となります。本日は、重症患者の栄養管理における重要ポイントである早期経腸栄養開始(24~48時間)、その方法(feeding tube留置を含む)、経腸栄養の至適投与量、静脈栄養の是非、ペプチド製剤、免疫修飾栄養剤、下痢対策について、実際の症例を呈示しながら皆さんと考えるセッションにしたいと思います。